【 101 】

氏名	濃　野　　信
学位(専攻分野)	博　士(医　学)
学位授与番号	博 乙 第 2392 号
学位授与の日付	平成 4 年 3 月28日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	**気管支喘息小児における血清IgGサブクラスに関する検討**
論文審査委員	教授　木村　郁郎　　教授　中山　睿一　　教授　太田　善介

学位論文内容の要旨

気管支喘息患児の血清IgGサブクラスを免疫酵素抗体法（ELISA法）で測定した。結果は，

1．喘息小児58例中9例（15.5%）で，IgG_1, IgG_2, IgG_3の何れかのサブクラスに欠乏が認められた。

2．これら欠乏例9例の年間の下気道炎の罹患回数は，1回が7例，2回が1例，5回が1例に認められ，平均1.6回±1.3回であった。一方，非欠乏例49例では，下気道炎の罹患が1回認められた例は3例（6.1%）のみで，欠乏例での年間下気道炎の罹患率は非欠乏例に比較して有意に高率であった（$p<0.01$）。

3．また，欠乏例9例中の喘息の重症度では，中等症が2例（22.2%），重症が7例（77.8%）であった。一方，非欠乏例49例中では軽症が6例（12.2%），中等症が35例（71.4%）重症が8例（16.3%）であった。欠乏例には軽症例は認められず，非欠乏例と比較して有意に重症例が多く認められた（$p<0.05$）。

4．一方，減感作治療例と非減感作例とでIgG_4値を比較検討した結果では，減感作治療群16例におけるIgG_4の平均は，非減感作群12例の平均，および健康小児10例の平均と比較して有意に高値であった（$p<0.05$）。

喘息小児で認められる易感染性の原因は，IgGサブクラスの欠乏によることが推察され，繰り返す感染は喘息の難治化，重症化をきたすものと考えられた。

IgG_4値については，減感作治療群において非減感作治療群及び健常児と比較して有意に高値が認められ，アレルギー状態のにおけるIgG_4は阻止抗体としての役割を示すものと考えられた。

論文審査の結果の要旨

本研究は気管支喘息患児における血清IgGサブクラスについて臨床的に研究したものであるが，従来十分検討されていなかったIgGサブクラスを測定しIgG_1.IgG_2,IgG_3の何れかに減少が認められ，又IgG_4は減感作例で高値を示すことを認め，特に喘息患児の易感染性を示す中に前者の様な減少例との間に関連性を認め，重要な知見をえたものとして価値ある業績であると認める。

よって，本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。